

あきたチャレンジキャンプ

～困難を抱える子どもたちを対象とした自然体験活動推進事業～

子どもたちを取りまく社会の変化により、現代の子どもたちは、自尊感情の低さ、社会性やコミュニケーション能力の乏しさが指摘されており、体験活動をとおして自己有用感を育む機会を増やす必要があると考えられます。

そこで少年自然の家では、様々な人たちと関わる機会や自然体験プログラムを、今年度は児童養護施設等の子どもたちに体験してもらい、子どもたちがたくましく成長していくことを目的に「あきたチャレンジキャンプ」を行いました。

○「あきたチャレンジキャンプ」in 大館少年自然の家

(1) 日時 8月4日(金)～8月5日(土)

(2) プログラム 1日目 テント設営 フィールドワーク 野外炊飯 肝試し
2日目 川遊び・カヌー

【フィールドワーク】



班に分かれて、励まし合いながら頑張って山道を歩きました。

【野外炊飯】



年上の子が年下の子に教えて上手に包丁も使えるようになりました。

【川遊び・カヌー】



カヌーに乗ったり、思い切って川に飛び込んだりすることができました。

(3) アンケート結果 (キャンプの経験が自信に！)

アンケート調査による効果の検証

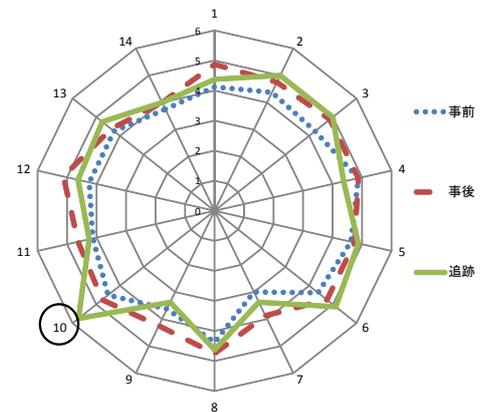
国立青少年教育振興機構が開発した「生きる力の測定・分析ツール」を活用

キャンプの事前、事後、1か月後にアンケート調査を実施し、生きる力の変容を検証

生きる力の変容	社会的心理的能力の変容	徳育的能力の変容	身体的能力の変容
28問 (得点範囲28～168点)	14問 (得点範囲14～84点)	8問 (得点範囲8～48点)	6問 (得点範囲6～36点)
(得点) 	(得点) 	(得点) 	(得点)
事前→事後 14.0P 事前→追跡 13.9P	事前→事後 6.1P 事前→追跡 5.0P	事前→事後 5.4P 事前→追跡 5.0P	事前→事後 2.5P 事前→追跡 3.9P

- ・全ての面において、事後に向上が見られました。
- ・「社会的心理的能力」において、「だれにでも、あいさつできる」が大きく向上しました。
- ・キャンプでの様々な人との関わりが自信となり、その後の生活につながったものと思われま。

【社会的心理的能力】



＜大きく変化した項目＞

10 だれにでも、あいさつできる
1.3ポイント ↑

(4) 成果と課題

- ・追跡アンケート(1ヶ月後)でも高い結果が出ており、キャンプの効果が続いていると考えられる。ただし「自分のことが好きである」の項目は、1ヶ月後にはマイナスになっており、自己有用感を高めるために、さらにプログラムの内容を工夫する必要がある。

※他の少年自然の家でも実施しました

保呂羽山少年自然の家 10月14日(土)～10月15日(日)

岩城少年自然の家 9月30日(土)～10月1日(日)

秋田県立美術館「県民作品展」奨励賞受賞作品の紹介

10月7日から22日まで開催した県民作品展では、秋田の自然や伝統文化、地域行事などを表現した67の公募作品を秋田県立美術館に展示し、多くの来館者に楽しんでいただきました。その中から3名の審査員よりそれぞれ奨励賞を選んでいただきましたので、制作者コメントと合わせて紹介します。

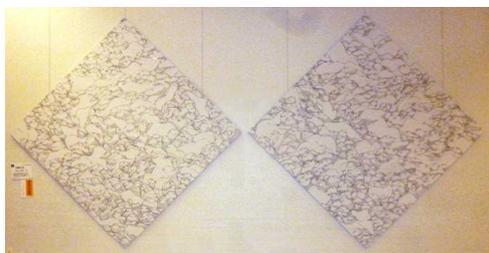
秋田県立美術館美術顧問 高階秀爾奨励賞



『小さな命、大きな宝』
菅原果歩さん

自然豊かな秋田に生息している生き物を描きました。一つ一つの命が集まって秋田の宝になっているということを表現しました。また、私は秋田の生き物が大好きなので生き物たちの様子を見ていた自分も描きました。

秋田県立近代美術館館長 仲町啓子奨励賞



『雪國の話』塚本かな恵さん

秋田における雪と農の関係を探る中で、かつて冬の農業は雪との闘いであったと聞きました。雪と共にある人々の営みを、絵画という形でどのように残していけるのか模索しています。

秋田県立美術館館長 平野庫太郎奨励賞



「あきたの風 II」秋田東中学校・勝平中学校合同

緑豊かな秋田のイメージを丘状の大地で、私たちが住む町のイメージを建物で表しました。さわやかな風が駆け抜ける、私たちが住む町「あきた」が大好きです。

連携講座『高階秀爾、名画を読み解く』 第2弾「あの名画は、なぜ名画なのか？」を開催しました



10月7日（土）県民作品展のオープニングに合わせて、連携講座「高階秀爾、名画を読み解く」をカレッジプラザにおいて開催しました。

この講座は秋田県立美術館美術顧問で美術評論の第一人者である高階秀爾氏が、世界的名画を取り上げ、その名画たるゆえんをわかりやすく解説するもので、昨年ポッティチェリ「春」、尾形光琳「燕子花図」に次ぐ第2弾の実施でした。



今年はゴッホの「ひまわり」や同時開催中の展覧会「レオナルド・フジタとモデルたち」での展示作品を取り上げ、ゴッホの生涯や名画の背景に潜む物語を興味深くお話いただきました。

ゲストには県立近代美術館館長仲町啓子氏をお迎えし、近代美術館で開催中の特別展「明治工芸の至宝展」から、花をモチーフにした作品を御紹介いただきました。

